

令和7年度 南島原市総合教育会議 会議録

日時 令和7年9月29日(月) 15時30分～17時00分

場所 南有馬庁舎 3階大会議室

出席者の氏名

教育委員	中村 一也
教育委員	松尾 哲
教育委員	植木 智穂
教育委員	瀬川 百合
教育長	松本 弘明
市長	松本 政博

構成員以外の出席者の氏名

副市長	宮崎 太
総務部長	五島 裕一
教育次長	石川 伸吾
教育総務課長	佐々木 航
学校教育課長	大草 修三
生涯学習課長	田口 享史
文化財課長	中村 隆敏
総務秘書課長	隈部 修司
教育総務課	井上 実
総務秘書課	景山 拓也

会議次第

(1) 市長あいさつ

(2) 協議

① 市内小・中学校の適正規模・適正配置について

② 市内小・中学校体育館の空調設備について

③ 学力向上対策について

市長

〈市長あいさつ〉

本日は、南島原市総合教育会議に、ご多用の中にもかかわらず、出席をいただきありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

また、教育委員の皆様には、日頃から本市の教育の振興並びに発展のために多大なるご尽力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、近年の教育環境はご存知の通り、大きな変化を遂げております。グローバル化の進展、情報技術の発展、気候変動への対応、少子化、そして多様化する社会への対応のため、柔軟な視点と行動が求められます。教育は地域社会の基盤であり、次世代を担う人材を育てる重要な役割を果たします。

そのため、教育現場のみならず行政、地域、家庭が連携し、未来を見据えた政策を推進していく必要があります。今後とも皆様のご協力をお願いします。

本日の総合教育会議では、

- ① 市内小中学校の適正規模適正配置について、
- ② 市内小中学校体育館の空調設備について、
- ③ 学力向上対策について以上を協議テーマとしています。

総合教育会議の趣旨であります市長と教育委員会の意思疎通を図り、地域教育の課題やあるべき姿を共有し、より民意を反映した教育行政の推進を図るために、委員皆様の忌憚のないご意見を、よろしくお願いします。簡単ではありますが、開会の挨拶とします。

それでは、協議に入ります。1番目市内小中学校の適正規模適正配置について、概要を担当より説明をお願いします。

教育委員会

市内小中学校の適正規模・適正配置について説明します。

本市は、これまで小学校の統廃合を計画的に進め、合併当初の平成18年度を比較すると本校12校、分校4校の小学校が減少してます。現在、小学校は本校13校、分校2校となっております。加津佐の野田小学校は、今年度で閉校となり、令和8年度4月から加津佐小学校と統合します。本市の児童生徒数は、今後も減少が見込まれ、小学校だけではなく中学校統合も検討する時期に来てます。

資料1枚目、小学校の児童学級数の推移です。上の表が今年度5月1日現在の市内小学校の児童生徒数と学級数です。小学校の児童数は、市内13校の合計で、1738人です。学級数は90学級、複式学級は色付けしてます。野田小学校に2クラスと飯野小学校に2クラスが複式学級です。

また、2クラスある学校は西有家小学校と有家小学校の全学年、深江小学校の6年生だけです。下の表は令和13年度の予測です。令和6年4月2日から令和7年4月1日まで生まれた子どもが、小学校1年生になった時の推移です。

令和13年度の児童数合計は1245人となり、今年度と比較して493人減少する予測です。学級数を見ると、堂崎小学校と小林小学校で複式学級が発生する予測です。また、西有家小学校6年生以外は1クラス、また有家小学校の半分も1クラスになる予測になります。全児童数の数字ですので、各学校には特別支援学級があります。その分を考慮すると普通学級の人数は、若干減少する場合があります複式学級が増える可能性があります。

次に市内の中学校の生徒数、学級数の推移です。1番上表が今年です。令和7年5月下旬現在の中学校生徒数と学級数です。今年度の生徒数は8学校の合計で966名36学級となり、真ん中の表が、令和13年度の数字です。

今年の小学校1年生が中学1年生になった時の数字になり、生徒数は全体で818人、現在と比較し148人減ります。学級は35学級と大きく変わりません。

最後に1番下の表が、令和19年度の予測で今から12年後の予測です。1歳児の子どもが中学1年生になった時の予測です。

全体で535人と、今と比べると431人と大幅減少する見込みです。学級数も有家3年生以外は1学級となる予測で全体26学級、今より10学級減る予測になります。以上が市内小中学校の児童生徒数、学級数の推移です。

次ページ、小中学校適正規模・適正配置あり方検討委員会です。あり方検討委員会を本年5月に立ち上げ会議を進めています。現在5月、7月、9月と3回開催しています。

あり方検討委員会の目的は、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化などの課題に対応し、生涯に渡り子ども達がより良い学習環境で学校教育を受けることができるようにすることと、次ページが適正規模、適正配置に関する基本的な考え方です。

児童生徒が、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことを踏まえると、学校は一定規模を確保するのが望ましく。それを検討するにあたり児童生徒数の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標より良く実現するため行うこと、また、統廃合を小規模校として存続させることも設置者である自治体が判断することになります。

次3ページ、本市は統廃合だけではなく小規模校として存続することも含め、将来に渡り、本市の子ども達がより良い環境で学校教育を受けることができる方策を検討することにしてます。そのなかで留意事項として、第1に子ども達のことを考え、学級編成基準、単式学級、複式学級においても検討する。また、教育専門の配置、児童生徒数は、教職員の配置数が決定すること、そこも検討して行きたいと考えてます。国の基準は、小中学校とも12学

級以上、18学級科という基準があります。通学距離は、国の基準では小学校 4 キロ以内と中学校 6 キロ以内となっています。その項目などについて、あり方検討委員会で協議しています。4～5ページは、小規模校のメリット、デメリット、統廃合のデメリット、メリットデメリットを記載しています。

小規模校のメリットは、個別指導を含めきめ細やかな指導ができ1人ひとりがリーダーに努めその機会が多くなるメリットがあります。デメリットはクラス替えができない、集団の中での自己主張などが挙げられます。統廃合メリット、デメリットは、メリットとして複式学級の解消や多様な考え方に触れる機会が多くなり、学習課題解決の思考が広がるなど、さまざまな場面で環境が整っていることが挙げられる。デメリットは通学時間が長くなるなどが挙げられます。6ページは小中学校の学校編成基準で、あとで確認をお願いします。距離の目安として地図に丸をつけてます。大きな円が半径 6 キロの円で小さな円が半径 4 キロです。8 ページ小中一貫教育の紹介です。小中一貫教育は小中連携教育のうち9年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を目指す教育です。1学校に1人の校長1教育組織で構成され、義務教育9年間を一貫して行う学校です。前期課程6年、後期課程3年ということになります。特徴は、柔軟な学校運営ができ前期課程、後期課程を6年3年と分ける以外に、4年3年2年や5年4年など変更することも可能です。小中学校の教員がそれぞれの専門知識を共有しながら、教育に活かすことができる特徴もあり、検討委員会は、地元高校の連携も含めて幅広く検討を進めている状況です。

市長

只今、担当から説明がありましたが、根本的な要因は、少子化、人口減少、地域人口の偏りが挙げられます。皆様の周りでも、少子化に関する話題、小中学校の適正規模適正配置についての議論。子どもの数が減少したことで、何がこうできなくなるなった。そのような話を教えて欲しい。また、少子化や学校の適正配置に関しての意見などよろしくお願いします。

委員

統合前提で考えると検討委員会が、さまざまな案件を持って検討されているので尊重します。私見ですが最後の説明の小中一貫校は、ルール内で行けると考えてます。

枠を外して大きな考えを持つと、本市をモデルケースとし、例えば県立高校と一緒に中学校と高校を一緒に考えると、教科にしても県立高校の先生が授業を教えることも可能です。目的は違いますが、長崎県では、諫早、佐世保北は他校に負けるなということで、学力を上げるためにしているのかもしれませんが、本市ではその考え方ではなく、少子化も要因として高校連携を考えてもいいと思います。もう少し大きく考えたとき小学校も考えられ、私学でしている所もあります。精道小学校、南山小学校は小中高です、精道小学校は小中高運動会も一緒だと聞いています。いろんな特徴もあると思いますが、モデル校として本市で

の児童生徒の人数の減少推移などを考えたときに、小中高一貫教育も検討していいのかと思っています。

市長 市の現状を踏まえ、子ども達の教育をどのような形が最良なのか、市の小中学校学校の教育がどのような形が最良なのか色んな方の意見を聞きながら進めて行きたい。基本的にここにある案や型に決めつけるのではなく、それぞれの立場から自由に発言を望みます。

委員 適正規模・適正配置については、いろんな意見があると思います。市内の統廃合を振り返ると、小学校統合は、地域の方からいろんな意見を聞きます。多い意見として地域の火が消えたと言われる。それを考えると残していくことも大事なことを考えます。統合するメリットもありますが、交通問題や子どもが仲良くなるための時間などを踏まえていくと、後5、6年は、児童数が少ない学校においても継続して行きながら、きめ細やかな教育をして行くこともひとつの案と考えている。特に中学校は部活動の地域移行の話があり、一緒になる機運が高まっています。いろんなことを考慮して20人くらいの生徒を1人の先生が指導するのが効果的ではないか、この市の良さを伸ばしていくのがいい。

逆に、部活動は地域移行し次はクラブ化となり、少子化のためやむを得ない部分ですが、都心部では、部活動は存続していくわけです。クラブと部活動が同条件で行えるよう取り組みながら、今の組織体で運営できるのであれば、しばらくはそのままの状態も1つの方法と考えてます。

委員 保護者の立場から考えると、今、統合するとどんな感じになるのかと想像しますと、もう少し状況を見ながら進めていく方がいいと思います。活発な子は、運動や勉強に対しても統合してより伸びていく部分もあると思います、そうでない子は、統合した時にどうなっていくのか心配です。小規模で手をかけてもらった方がいいのかと、先般もイングリッシュスピーチコンテスト弁論大会の際は、南島原市全体での発表とかができるように、各賞とかで、みんなでするような感じにしていけば、学校代表で頑張れるところがいろいろ出てくると思います。

市長 人口減少や少子化が進んでいるなかで、学校に入学する子ども達が極端に少なくなってきた。この状況のなかでの方法が1番なのか先ほどから意見を伺ってますが、現段階では、来年、再来年にすぐに統合をしなくてはという状況ではありません。皆さんがどう考えているのか、あるいは子ども達の状況かどうか。いろんなことも含めながら、行政として、今のこの人数での教育が最良なのか、いろいろ検討をしている段階です。担当としては、将来を見据えたところで、いくつかの案を提示し、先ほどから説明をして十分に検討をしないといけ

ない立場でおります。私は、今すぐに統廃合をする状況では、まだ無いと考えていますが、担当の考えを確認します。

教育委員会 教育委員会では、将来を見据えて行動することが一番大事と考えてます。今の状況であればそのままでいいわけですが、例えば統合しようと仮になり実際動き出したら、統廃合まで5年から10年はかかると見込んでますので、そこ踏まえて5年後、10年後を見据えて、まずはビジョンを出したいと考えてます。その方法は、先ほど話しましたが全てを一斉にするのが難しいのであれば、段階を踏んでいくやり方や、児童数が学校ごとに違いますので、時期をずらしながら行うなど、そのようなことも含めて考えていきたい。

市長 教育委員会から説明がありましたが、その考えでこの問題を取り上げ、取りかかる状況です。

教育委員会 検討委員会を開催し、その意見を受け教育委員会で協議して、まずは素案を作成し公表する。それについて意見をとる段階を考えています。

委員 段階的に計画にしてみたいと思います。先ほど話しましたが、部活動の地域移行が完了する状況になったところから動きを進めていただきたい。統廃合と地域移行を並行して行くと難しい状態になると思います。部活動が不安定な状態で統廃合は厳しいんです。ぜひ部活動の地域移行が形になって、進めていただければと思います。

委員 教育委員会の説明のとおり統廃合は年数がかかります。教育委員会で取り組んでいるように将来を見据えて検討し進めていただきたいと思います。分校の方は、平成12年ぐらいから話し合われたんですけど、なかなか話が進まなかったと記憶していますが、分校の件は教育委員会として、どのような考えをお持ちですか。

教育委員会 分校の統廃合については、必要なものと考えてます。資料にもありますが、国の基準では、小学校、中学12学級から18学級が基準になります。そのなかで、複式学級はデメリットが大きいと考えてますので、基準と実態を比べて、まずは複式学級を解消していくのが今後の考えです。

市長 他に意見はありますか。

委員

私が教職員時に2クラス以上の学年学級を経験した際は、集団の力、そこからリーダー性が育ち、切磋琢磨してからの団結力っていうのはすごく大きくて、子ども達の成長する姿を経験しました。その後1クラス6名の学年学級も経験しましたが、最初6名で戸惑いもありましたが、その6名がクラスのなかで1人何役もしてそれぞれが自立をして行き、またそのなかで仲間意識もでてくるという小規模校の良さも体験しました。学校統廃合の話が進んでいるなかで加津佐の野田小学校では、小学校の保護者から統合したい要望があったと聞きました。それは積極的な動きであり、意見をまとめられるリーダーがいらっしゃったのではないかと思います。そのような建設的な考えを持って、統合に進んでいく方向性はとても良いことだと思っています。今後、そういう野田小学校の考えなどを参考にしながら進んでいけたらと考えています。

市長

地域の声は重要です。どの地域も学校への想いがあります。統廃合の話になると地域、保護者の動きが重要です。例として、地域からの声、保護者から話が出る状況になり、スムーズに統廃合が進んだこともあります。さっき話がありましたが、野田小学校の人達も野田小学校のPTAから話を進めて、地域も巻き込んで、来年は加津佐小学校に統合することになりました。当然、地域の想いは無視できません。子どもの教育、そして地域の想い、それを重ね合わせた方法での統合は必要と思っています。皆さんからこの点についてありますか。

教育長

あり方検討委員会が開催されているなかで、いろいろと言えるところではありませんが、この統廃合を考えたとき何を大事にするのかを肝に銘じてます。

未来に向け子ども達が幸せになれる。いい学びができる。その事が1番大事なことだと考えてます。いろんな反対の声もあるのも事実です。地域に学校がなくなると寂れるなどの声をよく聞きます。行政の立場からすると、統廃合は財政面などでメリットがあるわけです。あり方検討委員会を開催する前に、それぞれの地区でアンケートを行いました。その民意を、しっかり受け入れながら進めていかなければと考えてます。

私は常々、小学生は地域で育てるのが基本だと考えていて、複式学級になりどうにもならない状況なら、やむを得ないかもしれませんが、学校まで歩ける距離を歩く。朝、自然を見ながら歩き地域の人と挨拶をする、そういう教育が必要だと常々思ってます。

中学生では、そうはいかない部分もあります。競争するとか多様性などの視点でいけば、ある一定の人数が必要だと考え必然的なことと考えてます。いろんなタイプの子どもと付き合うこと接することで、いろんな考え方、感情が生まれてくるものと思います。

なかにはそれが苦手な子どももいると思います。しかし一方で、それを経験して成長して欲しいという想いもあり、切磋琢磨する必要はあると考えてます。後半で学力問題の議題もあ

りますが、特に中学校はひと学年ひと学級の中学生の学力というのを、伸ばすっていうような視点から見ると、ある程度の競争原理は必要であるし、教職員においても例えば1学級しかない、例えば英語の教員が1人しか配置できない。その英語の教員は経験年数が少なく未熟である場合もあるわけで、子ども達の能力を伸ばしきれない可能性もあります。これが3学級ぐらいあると教員も複数の配置になり、教員自身も切磋琢磨をして学力を伸ばし、学力だけではなく、子ども達の人間性、向上心の機運が高まると思います。市議会では県立高校存続の質問がありました。なかには、小中高一貫連携の意見もありました。県と連携をとりながら情報収集やアプローチを進めていかないと考えてます。

市長 私は、本市の人口減少、少子化が進行している状況において、子ども達の将来、また地域にとってどのような取り組みが最善なのか、公立学校としてどのような体系の学校が、子ども達、地域にとって最善なのか、改めて小中学校の適正規模適正配置の課題は、しっかりと取り組む必要があると再認識しました。この話は、地域の皆さん、また教育関係者との協議も重ね、中長期的な視点を持ち計画を進める必要があります。引き続き皆様のご協力をお願いします。限られた時間ですので、次の議題に行きます。

2番目、市内の小中学校体育館の空調設備についてです。この件について全国的な状況と長崎県内の状況、その他情報の説明をお願いします。

教育委員会 市内小中学校の体育館の空調設備について資料1枚目です。現状として国は、子ども達の学習生活の場であるとともに、災害時は避難所として活用している学校体育館などは、空調設置などの避難所機能を強化し、耐災害性の向上を図る必要があると考えてます。しかし、全国学校体育館などの空調設置率は、2割程度であるため、さらなる設置促進が必要という状況です。右側グラフです、全国の公立小中学校における空調設備の設置状況です。令和6年9月現在での設置状況は、全国で18.9%となっており、国として令和17年度までに95%の設置を目標としています。

このため、令和6年度の補正予算から空調設備整備臨時交付金を新設し、避難所となる学校体育館などへの空調整備の加速化を図っている状況です。事業内容として、公立小学校、中学校の義務教育学校などを対象の施設としては1/2になります。予算の対象範囲は下限額が400万、上限額が7000万になります。主内容は、屋内運動場における空調設備の新設及びその関連公費、またその補助の要件は、避難所に指定がされている学校であること、耐熱性がなされていることになります。また、地方交付税措置もあり起債充当額が100%、元利償還金の交付税措置率が50%となります。

7月に大風量のスポットクーラーを設置している天草市の視察を行っています。

次のページ、令和6年9月現在の各県ごとの設置状況です。設置率は東京都が88.3%と1番高く、長崎県は0.4%と1番低い状況です。次3ページ、先ほど交付金の事業内容を詳しく説明したものです。①補助率は1/2です。②は補助単価です。補助率の補助単価が上がってます。③が耐熱性です。対処要件として耐熱性が必要で断熱向上しないといけないことになってます。ただ、この工事は空調をつけた年ではなく、後での設置が可能です。④は、先ほど説明した情報図です。⑤は、体育館の空調光熱費にも交付税措置を行いますという説明になります。次ページ、現在の学校施設環境改善交付金と先ほどからの空調設備整備臨時特例交付金です。事業内容の比較です。5ページ、先ほど説明しました設置率の最新の数字です。6ページ、全国の各県都道府県ごとの数字です。最後12、13ページ県内の他自治体の動向です。12ページが佐世保市になり2025年度には、第1次避難所などに指定をしている市内小中学校10校の体育館に設置。2026年度には8小学校、2中学校、2027年度は第2避難所の指定校や部活動で使用を優先しながら、全小中学校の8割強にわたる59校の設置計画をされてます。13ページ大村市は。市内全小中学校の体育館と武道館に設置を進める方針を示されてます。財源や運用方針は、今後検討される状況です。

市長 ご承知のとおり夏の猛暑などが全国的なニュースになってます。特に日中活動では熱中症への配慮が欠かせず、条件により活動制限する必要があります。そのような環境のなかで、多くの自治体、学校では、体育館への空調設備導入に関心があるわけで、担当の方が説明を行いました。先立って、これを進めている自治体もあります。この件で質問、意見などお願いします。

委員 学校訪問した際、体育の授業を見させていただく機会がありました。その体育館は、学校以外でも使用されています。時期は6月でしたが、ものすごく暑い日で5、6分の短時間で汗が止まらない状況でした。この時に、校長先生に「カリキュラムを変える必要がありますね」と話したのを記憶してます。予算が許せば、天草市などの例を参考して、設置をする検討をお願いができればと思います。

委員 私もお願いしたい。今の気候のなかで部活動や授業にしても、特に体育の授業は、先ほど言われたように、カリキュラムを変えて7月は授業を教室の方に変更するなどの対応をします。しかし最近、6月、10月でも暑い日があります。カリキュラムを変更するだけでは対応できなくなってます。避難所などの防災も含めて対応していただきたいと考えてます。特に全校集会とか私は規律を大切にしてきました。そういう集合したり、そういう場所で話をした

り、色んな活動するのは、一つの基本と考え、体験、活動、いろんなことを考えると、学校にとって体育館は非常に大事な教育施設です。タブレットなどで、全校集会や講和などの活動はできるかもしれません。そうではなく全校生徒集合して整列する、姿勢を正す、そのことは教育にとって非常に大事なことだと考えてます。よって、体育館の空調設備については進めていただいたら学校も子ども達も、有意義な教育課程を含めて進められると考えます。

委員

先般、大村市へ研修に行かせてもらいました。大村市ではボートの収入があり財源はあるということを前提に話をされました。新聞記事にある空調設備ができるんだと感じてます。どこの市も簡単に設置できるものではないですが、できる範囲で進めてもらいたいと思います。校長先生の人権の話を聞きに、中学校に訪問したのですが、体育館は暑いとのこと。各教室クーラーが設置してある教室で話を聞くようになってました。そのように暑さ対策を行いながら学校運営をやっておられます。先ほどからの話で、体育館はいろんな活動、運動だけではなく避難所にも指定されているわけです。これには断熱性が確保されていることと書いてあり、各学校の体育館は、断熱性が確保されているのか、されてないのであれば、更に経費がかかると考えていたところです。

教育長

先般の議会でも、この事について一般質問が出ました。前向きに検討する方向性を示させていただきました。天草市の視察報告を受けた際、文科省が提示している断熱性は、多額の経費がかかり、話が前に進まないのではと考えてましたが、天草市を参考にした時に、色んな方法があるのでないか、先進的に市内1台でも先に導入した方が、話が進むのではないかと思案したところです。そのような報告を担当から受けて、次年度の施策の目玉ではありませんけれども、それを含めて、進展する態度が必要と考えています。財源が伴うものなので、難しい状況もありますが、市長部局の協力と理解をお願いします。

市長

私もそうように考えてます。生徒が安心して活動ができ、また先生方が安心して指導をする環境づくりのためには、この近年の暑さ、熱中症対策には、小中学校の体育館の空調設備は必要なものです。早急に取り組む必要があると私も考えてます。担当の方はどうですか。

教育委員会

財政面もありますが、大村市は県内で最初に設置すると発表しています。県教育委員会も設置に向けて検討してます。国の方も熱中症対策は積極的な取り組みをしています。各市町もその考えであると思います。本市も他市に遅れを取らないように、計画を作成し財源を考えて早急に検討して行きます。財源は、補助金を使用すると断熱性を向上しないといけませ

るので、補助金を使用しなくて単独でも有利な起債があります。どの方法が市にとって1番有利になるのか検討し進めたいと思います。

総務部 避難所各地区に避難所があり、第1避難所はすべてクーラーが設置してあり、第2次避難所は、口之津町以外は全部クーラーがあります。口之津地区では、口之津小学校が第2避難所になっており、クーラーの設置がない状況です。先般の大雨の際は、口之津は第1避難所から第2避難所に急遽変更をし、口之津小学校体育館が第1避難所として使用した経緯があります。そのような避難所など含めたところで、どのように対応していくのか総合的に考えていく必要があります。

市長 以上のような状況を考慮すると、総合的な検討を行いながら、前向きに取り組まなければならないと考えています。この件はこれでよろしいですか。それでは、次3番の学力向上対策について、本市の学力の状況、学力向上の取り組みを確認します。担当から説明をお願いします。

教育委員会 本市の学力の現状それから取り組みの内容について説明します。資料は令和7年度全国学力学習状況調査結果をお願いします。

この全国学力テストは、毎年度4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されます。毎年度実施は、国語、算数、数学で、年度により理科、英語などの調査科目が変わります。今年度は、小学校が国語、算数、理科、中学校は国語、数学、理科の3教科が調査科目になってます。調査結果は、ここに示してますが小学校、中学校ともに調査教科である国語、算数、数学、理科すべての教科で、全国平均成長率と同程度か、それより低い結果となっています。特に、小学校の算数、中学校の数学、中学校の理科の差が大きく、各学校における分析をもとにした改善の必要です。

学力学習状況調査が始まって、本市は全国平均点を越えられない。また、県平均点を超えることも近年できていない現状であり、大きな課題として捉えています。2段目に児童生徒の質問調査があります。これは子ども達に対してのアンケート調査です。良いところとして、本市の子ども達は自分には良いところがあると思う。つまり、自己肯定感も高い傾向にあります。それから将来の夢や目標を持てるという子ども達の割合も高い。人の役に立つ人間になりたいと思っている子どもの割合も高い。地域や社会をより良くするために、何かしてみたいと思っている分野が高いので、これを分析すると学校教育以外の地域との連携やふろさと教育など、地域の方々、大人との交流があるっていうのは、ここに大きく影響していると分析します。学校の授業時間以外での学習時間が、小学校では全国よりも若干高くなって

ます。よく勉強していると思います。ところが中学校になると、全国平均を下回っており、家庭学習の時間が少ないのは大きな課題です。

様々な要因が考えられますが、高校入試がほぼ全入時代となり、昔は受験勉強が1つのモチベーションになってましたが、現在は勉強しなくても入学できると考える子ども達が多くなっています。もう1つは、この授業時間以外での学習時間に実は塾の時間も含まれ、塾の時間とか、家庭教師が指導する時間も含まれます。本市の地域性から塾通いは少ないのが現状です。家庭学習は学校からの宿題のみとなり、宿題も先生方が1人1人の能力に応じた個別宿題を与えることができればいいのですが、先生方は、当然その余裕はなく一律の宿題レベルとなり、レベルが真ん中の子ども達に合わせると、下位の子はわからないのでやらない。上位の子には簡単で、後は遊んでしまうような結果に繋がることがあり得ると考えてます。家庭学習の質と量の課題は、本市にとって大きな課題の1つです。

そこで市教育委員会では、各学校での学力向上プランを作成しており、目標設定しています。その目標達成に向け、それぞれの学校の子ども達の実情に応じた取り組みを行ってます。また、他の取り組みとして授業改善があります。この授業改善とは永遠の課題と思っており、これはゴールのない永遠のテーマだと考えてます。

先ほどにも話がありましたが、先生方は中学校で言えば1つの学校に1つの教科に1人しかいないとか、また小学校でも1学年1つの担任であると周りに学べる人がいない。仮に新任の先生が入ってきても隣の先生に学べないのが現状です。どうよう授業をするのか、または同じ教科の先生に先輩がいて、その先生に学ぶっていう状況がない環境は、大きなマイナス要因と考えています。このような学校での授業改善に取り組み、家庭学習の質と量を確認なものにしていくことが、今後政策として取り組んでいかないと考えています。

市長 児童生徒の学力向上は、さまざまな取り組みを行うなかで、現場の先生方は、本当に一生懸命に努めていただいています。市長として大変感謝をしています。私が言うまでもなく学力をつけるということは、人生のさまざまな面で役立つ自分の可能性を最大限に引き出す手助けをしてくれる児童生徒の人生で大きな意味合いを持つと考えてます。そのため児童生徒の学力向上は、教育の大きな柱だと思います。教育委員会から説明がありましたが皆さんから質問や意見などよろしくお願いします。

委員 学力向上は永遠のテーマと思いますが、確かに成績が上がった方がいいんですが、現役の高校の先生方に話を聞くと、最近は高校卒業後に就職しても、すぐ職場を辞める生徒が多いようで、これが1つの課題だとお聞きしました。

どこの学校の生徒も、成績が普通の子供が大部分を占めるわけです。全国的にトップになる子は、なかなかいないのが状況です。北村西望先生の、健康にして特性高き人っていう言葉があります。健康で頑張っている取り組んでいく姿勢を作ることも大事と考えてます。ここに居る皆さんも、頑張る姿勢とか、そういうの学んでこう生かされてものだと考えています。1つは中学生の部活が良い機会だったんですけど、それが縮小していくのも寂しい部分があります。今後そういうものをどこで作っていきながら、本市から生徒は、どの高校に進学し、就職し、または大学に行っても、やめないで頑張る子ども達を作ることも、非常に大事なことと思います。そういう子ども達を目指していくと勉強もするようになると思います。

委員

本市は、スタート時点から学力向上には勤めてきており、先生方の授業に対する姿勢、あるいは考え方から始めていき、成果を得て実践に取り組んでると理解しています。教育は揺れるのと同じで、右に行けば右に、左に行けば左と、学力テストの素点もこれを上げるための訓練をすれば上がります。カリキュラムを変えて、過去問を練習させれば、全国学力テストの成果は若干上がります。特に点数が常に上位の県は、これは先生方のコメントがありましたが、これをするためにカリキュラムが消化できないという課題も挙げられます。去年、都心部で小、中学校も順位が上がっており、都心部の順位が上がった要因は何が考えられますかと課長に質問しました。課長は、はっきりとした資料はないが私見として塾などの環境が整っており、保護者の経済的な面も大きく影響してるのではとのことでした。市教育員会は色んな取り組みをされており、数年後には成果が見えてくると考えてます。点数に左右されず生きる力は何かというのを考えて、保護者や地域の方々と一緒に取り組むことによって、考え方も非常に豊かになってくる。発言力もついてきた、それが生きる力じゃないかなと思います。点数は訓練すれば上がるのであって、真の生きる力の育成に努めてほしいと考えてます。。今までの実践の成果を期待します。

委員

今、現役当時の事を思い出しました。低学年の担任時には、プリントに答えを持たせ保護者に答え合わせをしてもらい保護者を巻き込んで生活習慣をつけ学習のしつけなど協力をしてもらい育てます。高学年担任になるとなかなか時間確保できないので、夏休み補習を受けさせようと子ども達を呼んで、夏休みを利用して学習時間の確保していたのを思い出します。その当時の先生方も世代交代になり、子どもや親の考え方は、時代とともに変わっていきます。学力向上に向けて、私達ができること考えた際に、学校訪問の機会がありますので、それを契機にして校長先生、または学校を指導される方々は、それを重きに感じるのではなくて、それを契機にして先生方を育てていくような考えを持っていければと思います。

す。以前、大村市に研修行った際に、講師の先生が、指導者が変われば子どもも変わるという話をされてました。本気は無敵だとも話されてました。

先ほど話で、教職員の指導力向上を図ることも1つ考えて良いと思います。もちろん、学力の点数が全てではありません。先ほどの話のように生きる力を身につけることも大切です。この結果を1つの契機として、新たな考えのもと指導も見つめ直して、本気で先生方が子ども達に向かって頂けるような資質の向上が図れればと思います。そのために色んな学力向上委員会や研修会などに行かれた成果なども先生方に還元をされていますので、その取り組みを今後も続けられたらと考えてます。

委員

今までの話を聞いてすごく勉強になるし、先生方が本当に子ども達のために一生懸命、子ども達に生きる力をつけるために考えているのが伝わって保護者の立場として感謝しています。私は保育士ですけど、私達も学校に行って、正しく座って授業が聞ける体を作るために、保育園でも今じゃなくて、将来を見据えて仕事をしたら仕事ができる子どもに育てる土台づくりに努めています。この保育園と学校が繋がるように私達も頑張っていきますので、今後も子ども達のためによろしく願います。

教育長

教育の動向や本質的なことに関して、委員の皆さんから多くの意見をいただきました。まさにその通りだと思います。今、個別最適な授業、個々に応じた授業どれが一番いいのかっていう話が出てますが、先生方は、普段の授業の中でクラスのどのレベルに合わせて授業をしているのか考えたときに、クラスの平均的なところを目安にして授業を構成していると思います。カリキュラムを年間で考えたとき、週単位、月単位で計画性を考えて授業を進めていくことになります。経験豊富な先生なら、個別的な指導も交えながら進められるけれど、実際には簡単なことではなく、昔からの課題と考えてます。

そのなかで、授業についていけない子どもを救うことを考えたときに、デジタル時代にAIが登場しました。市でもAIを使用して文章作成を行うなど、その機能の素晴らしさを肌で感じることもあります。学校教育のなかでもAIを使ったAIドリルがあり、今までは紙媒体のドリルを保護者が負担して購入し、漢字や計算などをしました。

AIドリルを使用すると、その子どもの苦手な部分や理解力など自動判断し、その子の適正にあった問題を提示します。そのようなAIドリルを活用している学校は近年、増加傾向にあると聞いています。ひとつは、それを子ども達に最大限に活用できるなら、個別最適な子ども達の学習になっていく1つの方法として、そういう方法を利用する考えもあると思います。

教育委員会 AIドリルは、現在、南島原市内の小学校で無料体験版を利用して子ども達が取り組んでいる実績が何校かあります。無料体験版は期限が1年であるとか、内容が限定されたもので、問題数も少なかったりしますが、学校からの利用要望があるのは事実です。

AIドリルは、先程の話のように個別の子どもの理解状況に応じて問題を提供してくれます。成績上位の子どもは、レベルの高い問題へと発展していく。問題がわからない子どもは、レベルが下がっていき、前学年の問題を出すなどAIが判断します。子ども達も正解するとやる気に繋がりがり次もやってみようとなります。もう一つ特徴は、その子の回答の様式に合わせてステップアップできる、例えば穴埋め式から選択式へ、選択式から記述式へとステップアップできるような内容になってます。AIドリルの良さは、個別最適、個々に応じた問題提供ができること、もう一つは、教員の働き方改革から採点もAIが行い、先生方が1人1人の様子を見るのではなく結果が見えてきます。この子はここで間違っている、この子はここにつまずいているのが一目でわかるから、教師としても子ども達の学習面が可視化される長所があります。予算的なものがあり学校としては、保護者にその費用分を依頼するのが難しい現状です。可能かどうかはここで言えませんが、行政として、そこに少しでも補助等ができたなら教育委員会として思っています。具体的に動き出してはませんが、可能なら市全体としてAIドリルを活用するのも一つの学力向上対策になり得ると考えてます。

市長 AIドリルは西有家小学校が、外部からの支援をいただき無償で利用していると聞いてますが、今何年目ですか。

教育委員会 西有家小学校、中学校では、外部から支援していただいたものを元にしてAIドリルを導入しました。西有家小学校は3年目、西有家中学は2年目です。今年度が3年間の終了年となっておりますが、次の話も出ていますし、他の小学校は別会社のAIドリルを1年間無料体験という形で取り組んでいます。

市長 それぞれの立場から意見をいただいておりますが、本日は副市長も出席をします。最後の議題ですが学力向上について何かありますか。

副市長 教育委員会、委員の皆さんから有意義な意見を聞かせてもらったと感じてます。この学力向上は簡単な話ではないと考えています。全国学力テストは、全国一斉に同問題を回答し、県単位、地域単位、学校単位での学力を可視化する目的でされていると思いますが、その結果を受け、現場の先生達は、どうしたら学力が上げるのか、少しでも上位に行きたいと

思うのは当然なのことと思います。結果が全てなら、それに対応したものを特化して子ども達に訓練させれば良いわけで、その方法も1つのやり方だと思います。

教育の原点は、そのような所もありながら、その子ども達のために、どのように成長させたいのか、育てたいのか、ここを充分に考えて、子ども達の人生を導いていただきたいというのが、私の気持ちです。本日は、皆さんの素晴らしいご意見を聞いて、非常に有意義な時間を共有できました。今後も南島原市の教育行政に協力をお願いします。

市長 皆さんから前向き話をいただきました。この件は、先生方からそれぞれ立場で、様々な分野の指導があり、現場では学力向上においても一生懸命に指導いただいていることに市長として感謝してます。時間も予定が過ぎました本日のテーマは、以上で終わります。
長時間にわたりのご協議ありがとうございます。これからも本市行政の教育行政の推進に、ご尽力とご協力をお願いします。この教育会議を終了します。

閉会 17:00